

1. 実況上の着目点

① 500hPa 5820m付近の正渦度極大域に対応した前線が華中から朝鮮半島へのびている。500hPa 5580m付近で -18°C 以下の寒気を伴うトラフ対応の低気圧が前線を伴い中国東北区を東北東進。

② 500hPa 5940mの張り出しに対応する地上の高気圧が日本の南で、ほとんど停滞。晴れて気温が上昇し、西日本を中心に猛暑日の所がある。高気圧縁辺を回る下層暖湿気（16日09時の鹿児島の高層観測850hPa相当温位 348Kを観測）や昇温の影響で、東～西日本と南西諸島では、局地的に激しい雨や非常に激しい雨を解析し、発雷を検知。また、高気圧が日本の東を東へ移動。

③ 低気圧がオホーツク海を東進。低気圧と日本の東の高気圧の間で気圧の傾きが急となり、北海道地方では13m/s前後の風が吹き、波が高い所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の中国東北区の低気圧は発達しながら東進、17日にかけてオホーツク海を通り千島近海へ進み、前線は北日本を通過する。また、1項①の大陸の前線は日本海へのびて、17日朝までにオホーツク海の低気圧からのびる前線と一体化する。その後、前線は18日にかけて次第に本州の南岸付近へゆっくり南下する。また、18日は500hPa 5700m付近で -15°C 以下の寒気を伴うトラフが北日本を通過し、寒気が北～西日本に南下する。前線や低気圧に向かう下層暖湿気や上空の寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い非常に激しい雨の降る所がある。北日本では17～18日にかけて、東～西日本では18日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。低気圧や前線の影響で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。北日本では17日にかけて、強風や高波に注意。

② 1項②の高気圧は、18日にかけて日本の南にほとんど停滞し本州付近へ張り出す。西～東日本では18日にかけて、晴れて気温が上昇し、猛暑日または猛暑日に近い気温となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。南西諸島では、1項②の高気圧縁辺から流れ込む下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨の降る所がある。南西諸島では17日にかけて、落雷や突風、急な強い雨に注意。

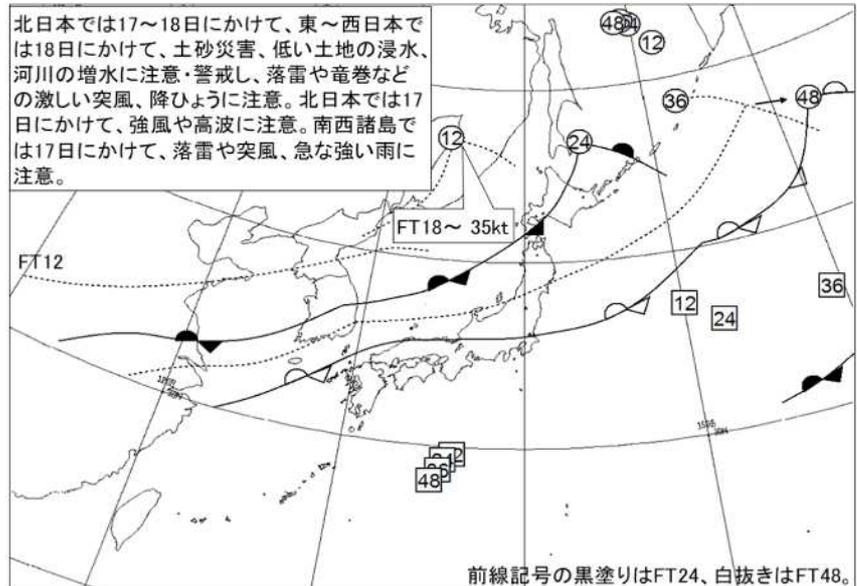
3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

② 波浪(明日まで)：北海道3m。

③ 高潮(明日まで)：東～西日本で、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「雷と突風及び降ひょうに関する全般情報」を17時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図